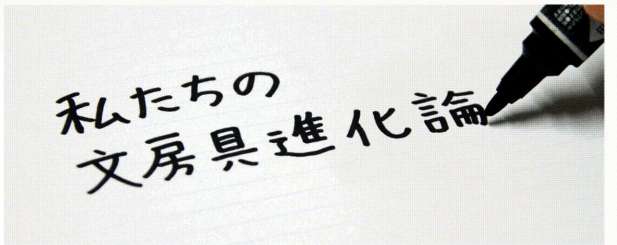


Campus 新聞 Vol.34

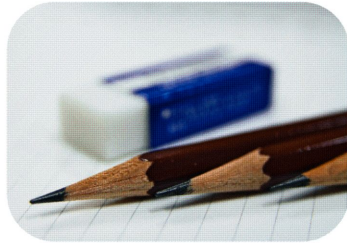
大学生たちの学業には不可欠な文房具。いま次から次へと便利でユニークな新製品が誕生している。文房具はどんな進化の道筋をたどるのか。学習院大学新聞社の学生記者たちが、今どきの文房具について取材した。今週のテーマは「私たちの文房具進化論」とした。



今週のリポーター

学習院大学

学習院大学新聞社



カラフルな商品が並ぶ店で、お気に入りの文房具を選ぶ学生たち

手帳・ファイル・ペン「三種の神器」

大学生の文具事情

チャイムの音とともに、90分間にわたる集中力との戦いが開始される。授業中、文房具は苦楽を共にする相棒だ。しかし、改めて注目することは少ないのではないだろうか。そこで、学習院大学の学生を対象にアンケートを行い、文具に対する意識を調査した。

まず、大学生になって使う頻度が増えた3種は、上位から手帳、ファイル、ペン。手帳、ファイルは「予定の管理をするた

め」「プリントが多くなった」との理由が大半であった。

逆に使用頻度が減ったのは、6割の人がノートを挙げた。講義は主にプリントで進み、直に書き込むことが多い。そのため、ノートを使用する機会が少なくなったのだろう。しかし、少数意見として「縦線を入れてページを2分割し、板書用とメモ用で分ける」という独自の活用術を駆使する人も。また、ルーズリーフに移行した学生も多く、一概に板書量が減少したとはいえない。

筆記用具にこだわり

どうやら、学生の日常は「書く」ことを主体に回っているようだ。日頃から手帳に予定を書き、講義で懸命にメモを取る。実際、こだわりの文具を尋ねると、筆記用具が多数を占めた。

中でも顕著なのは、書き心地についての意見だ。複数の支持を得たボールペンは、三菱鉛筆から発売されているジェットストリーム。はっきりした書き味を特徴とし、常になめらかな線を書くことができる。また、パ

イロットのドクターグリップに代表される、振って芯が出るシャープペンシルも人気を集めた。授業には素早く美しい筆記が不可欠であるため、それに合った文具を選ぶのだろう。

目新しさより愛着?

最後に、文具に対する要望からは意外な事実が見えた。何かしら不満を持つという声は4割弱に留まり、半数以上が現状に満足していた。また、挙げた要望の多くは既に商品化されていた。例えば、「優しい色の蛍

光ペン」を求める声にはゼブラのマイルドライナーが、「折れにくい芯」はぺんてるのシュタインが応えている。メーカーの努力により、学生の要望は日々形となっているのだ。

新商品が発売される中、思い入れの深い1つのものを使い続ける人は多い。集計では、愛着のわく文具があるとの回答は62%にも上り、少なからず自分だけのお気に入りを持っている。ずっと大切にできる文房具との出会いが、私たち学生の望みなのかもしれない。

「未知の部分や可能性が魅力」文具を愛するコミュニティに参加

文房具の魅力を探るべく、mixi(ミクシィ)のコミュニティ「文房具朝食会。」で毎月3回ほど実施されている朝食会を取材した。今回は、20~40代の男女約30人が参加。まずお互いに自己紹介をし、それから各自が持ち寄ったお気に入りの文房具のプレゼンテーションが行われた。

登場したのは見た目がビデオテープにそっくりなノートや切れ味が抜群のハサミなど、ユニークな品物。文房具の工夫

した使い方も披露され、プレゼン後には、品物を参加者の間で回して使用し、和気藹々^{あいきあい}と感想を述べ合っていた。

楽しさを求めたり、機能性を重視したりと、人それぞれにこだわりがあり、新鮮な印象を受けた朝食会。主催者の成島智広さんに文房具の魅力を伺うと「文房具は学生時代はもちろん、社会人になってからも触れない日はないくらい身近なものです。しかし、新しい商品の情報や面白い使い方など意外と知らないことが

多いです。そうした未知の部分や可能性に魅力を感じますね」と答えてくれた。

さらに、最近は使い手が自分好みの文具を作っていく傾向にあるという。ユーザーが使いやすい色や太さのペンを選んで組み合わせる3色ペンなど、好きなようにカスタマイズできる商品が各メーカーから出されているようだ。

独自色が出やすくなり、魅力を増している文房具。皆さんも、この奥深い世界に触れてみてはいかがでしょうか。



文房具談義に花を咲かせる参加者たち